



はいのたね



井上病院からのお知らせ

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種について、予約電話は大変混雑しお待たせしますので
コロナワクチン予約サイトを開設いたしました。お電話よりスムーズに予約できます。
ご家族代理の方でも予約可能ですが、接種者のお名前での予約をお願いいたします。

予約方法

【スマホの場合】 QRコードをスマホで
読み込んでください ⇒

【パソコン・スマホ共通】 <https://reserva.be/inouebyoin> と検索し、
井上病院のホームページからも予約サイトに移動できます。



接種予約サイト



井上病院のワクチン接種会場入口について。(通常入口ではありません)。(2022年09月07日)
コロナ取組(2022年09月07日)
抗体検査(2022年09月07日)

もっと見る >



予約サイトの
この部分を
クリックして
予約開始です。

【ワクチン接種専用】 予約電話番号 084-982-6600

※ 電話は混み合いますのでネットでの予約をお願いします

人工呼吸器をつけるということ

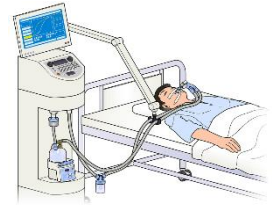
様々な病気のために高度な呼吸困難になった場合、患者さん・ご家族は人工呼吸器をつけるか等の延命を希望されるかどうかを問われる機会があります。人工呼吸器つけるとういことについて、説明いたします。

人工呼吸器とは…

人工的に呼吸を補助する または 代行する機械です。

病気や何らかの原因により、酸素を体に取りこめず酸素不足になっている場合、体の中に溜まった二酸化炭素を出せない場合、または呼吸に関連する筋力が疲労し呼吸することが難しくなった場合などに使用します。

マスク式のものや口や鼻に細いチューブを入れるもの、気管を切開し直接チューブを入れるものなどがあります。呼吸を全面的にサポートするものや、わずかのみの補助のものまで様々です。



人工呼吸器の良い点

- 危機的な状態を一時的に回避し、治療の時間を確保できます
- 呼吸を助けることで蘇生の機会を得ることや、状態悪化の悪循環を絶つことがしやすくなります
- 症状が回復した場合は、人工呼吸器を外すことができます

人工呼吸器の注意点

- 管が入ることでの苦しさを感じます
- 声を出すこと、飲食に制限やリスクがあります
- 状態に応じてや苦痛を和らげるために、鎮静剤を使用する場合があります
- 現在の日本の社会通念上、使用中の人工呼吸器は病状改善以外の理由では中止することは難しい状況です。呼吸する力が十分に回復しない場合、人工呼吸器の使用の長期化またはさらなる医療処置を要することになります。それが患者さんやご家族にとって望ましいのか、悩まれることがあります

人工呼吸器はあくまで呼吸を補うものであり、回復するかは患者さんの状態により様々です。状態がある程度落ち着いていれば、在宅生活用の呼吸補助機器を使い、必要に応じて医療・介護のサポート体制を充実させることもできます。

また、患者さんご自身が決断・意思表示できない場合やご家族が困惑の中で決断をゆだねられる場合があります。このような場面に備えるため、最近では今後について考え話し合うということをお勧めしています。**アドバンス・ケア・プランニング（愛称：人生会議）**として勧められています。どのような医療を望むかなどを事前に考えることや話し合うことをお勧めします。

新型コロナウイルス感染症の後遺症 感染対策継続とワクチン接種の重要性

院長 森 雅信 医師



〈はじめに〉

先日、福山市医師会・広島県医師会から、新型コロナウイルス感染症の後遺症についての小冊子が届きました。その一部をご紹介します。

症状の多くは時間の経過とともに改善することが多いとされていますが、中には1年以上も続くことがあります。原因として身体的障害のほか、精神・心理的な要因が大きな割合を占めることもあります。

〈代表的な症状〉

一般的には、感染時に重症度が高い（中等症以上）人ほど後遺症に悩まされる傾向があるといわれていますが、軽症で済んだ人でもその後に後遺症が続く方も見られます。

代表的な症状は以下の4種類に分類されます（図1）。

- 1) 呼吸器症状： 咳、痰、息切れ、胸痛
- 2) 全身症状： 倦怠感、関節痛、筋肉痛
- 3) 精神・神経症状
： 記憶障害、集中力低下
不眠、頭痛、抑うつ
- 4) その他： 嗅覚・味覚障害、
動悸、下痢、腹痛など



（図1）後遺症の代表的な症状
千葉県印西市ホームページから引用

〈後遺症の具体例と対応・治療〉

① 咳・痰

ウイルス感染に伴う肺の変化によって咳が長引く方がいます。レントゲンやCT 検査などで異常が見られない場合には精神・心理的要因が原因となっている可能性が考えられ、喉の詰まった感じや気管が狭くなったような感じがします。

一般的な咳止めや去痰薬、喘息などに用いる吸入薬も有効です。抗不安作用を持つ半夏厚朴湯など漢方薬の併用も有効です。

② 倦怠感、関節痛・筋肉痛

少し動いただけでも疲れやすくなり、日常生活を送ることが困難になる人がいます。

対応としては、まず十分な休息が必要です。症状緩和的に補中益気湯などの漢方薬や鎮痛剤などを服用し、抑うつ状態が見られる場合には、抗うつ薬を併用することもあります。

③ 頭痛

長引く頭痛の場合には脳 CT 検査や MRI 検査での確認が必要です。通常の鎮痛薬に加えて、片頭痛に対するお薬が有効な場合があります。また、強い肩こりのような頭痛を訴える方の場合には、筋緊張性頭痛が考えられ、筋肉の緊張を緩和するお薬が有効です。

④ 不眠

自宅療養や入院によって乱れた睡眠のリズムを正常化させることが重要です。どうしても眠れない場合には、短時間だけ副作用や依存性の少ない眠剤を服用することもあります。

⑤ 嗅覚・味覚障害

嗅覚・味覚障害自体は自然に回復することも多いのですが、経過によってはステロイド点鼻薬や漢方薬、亜鉛製剤の内服を行います。

〈ワクチンの後遺症予防効果・感染対策継続の重要性〉

では、万が一新型コロナウイルスに感染した場合に備えて、重症化しないため、さらには後遺症に悩まされずに済むために皆さん自身ができることは何でしょうか。それは、積極的にワクチン接種を受けることです。第8波が近づいている中、現在はオミクロン株対応のワクチンが接種できるようになっています。

徐々に行動制限が緩和されウィズコロナが進む中でも、「感染しないこと」、「重症化しないこと」に加えて、「後遺症を残さないこと」も重要です。これまで通り3密を避け、屋内ではマスクを外す時間をなるべく短くするなどの基本的な感染対策の継続が重要です。

〈おわりに〉

もし後遺症が疑われる場合には、早めにかかりつけの医師によく相談して、長引かせない様に適切な治療を受けましょう。

井上病院では、新型コロナウイルスワクチン接種を今までも、そしてこれからも積極的に行っていきます。これまで、ワクチン接種予約電話（084-982-6600）にて予約を受け付けていましたが、混雑でつながらない場合があり、このほどネット予約サービスを始めました。24時間対応ですので、ホームページにある予約サイトにアクセスしてください。詳しくは前述のお知らせをご参照ください。

1日も早く感染が収束し、自由に外食や旅行ができる日がもどってくることを心から願っております。